

機械器具（51）医療用嘴管及び体液誘導管
管理医療機器 吸引キット 13846000

トップ 吸引処置キット

再使用禁止

【警告】

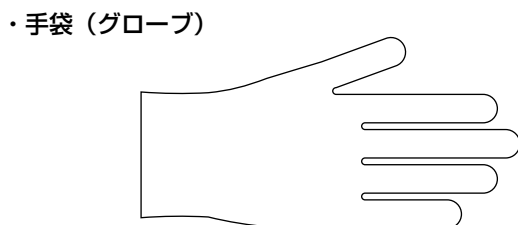
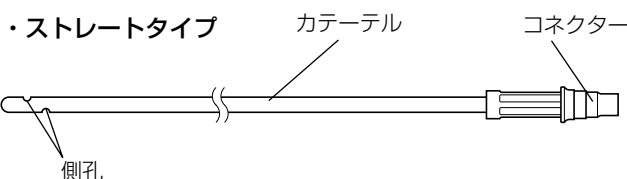
1) 低酸素状態にある患者に使用する場合は、特に吸引圧、吸引時間に注意して使用すること。[無気肺をきたすおそれがある。]

【禁忌・禁止】

1) 再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

<構造図(代表図)>



・本品はポリ塩化ビニル（可塑剤：フタル酸ジ（2-エチルヘキシル））を使用している。

（材質）

カテーテル	ポリ塩化ビニル
コネクター	ABS又はポリ塩化ビニル
手袋	ポリエチレン

※【使用目的又は効果】

・気管内チューブ若しくは気管切開チューブを介して、又は経鼻的若しくは経口的に、咽頭、喉頭、気管又は気管支等に挿入し、吸引、排液及び異物除去等に用いること。

【使用方法等】

- ※ 1. 適切なサイズの吸引カテーテルを選定し、汚染に十分注意して包装から取り出す。
- ※ 2. カテーテルを保持する手にグローブを装着する。

- ※ 3. 吸引カテーテルのコネクターを吸引器に確実に接続する。
- 4. 吸引源の吸引圧を適切に設定する。
- ※ 5. 吸引カテーテルを滅菌蒸留水につけ通水する。
- ※ 6. 一方の手で吸引カテーテルの基部を持ち、グローブをした他方の手でカテーテルの先端を持つ。
- 7. カテーテル先端が吸引する部位に達するまでは、吸引圧をかけないでゆっくりと挿入する。
- 8. カテーテル先端が吸引する部位に達したら、吸引圧を加えると共に、先端を回転させながら吸引する。
- 9. 吸引圧の調整は吸引調節口付では吸引調節口を塞いで調節する。調節口の無い場合にはカテーテルを折り曲げて行うこともできる。
- 10. 吸引終了後は、吸引しながら徐々にカテーテルを引き戻し抜去する。
- 11. 分泌液が多く1回の吸引で不十分な場合は、一旦カテーテルを抜去して、深呼吸させたり、バッグで肺を膨張させたりした後、再び吸引をする。
- 12. 手技終了後は、再使用せずに安全な方法で廃棄する。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- 1) 使用前、カテーテルサイズや形状等が挿入部位に適合していることを確認すること。
- 2) カテーテル挿入時には、歯、鼻甲介及び鋭利な器具等でカテーテルを傷つけないよう注意すること。[液漏れ、空気混入や損傷のおそれがある。]
- 3) カテーテル挿入時には、口腔、鼻腔、咽頭、気道粘膜への損傷に注意すること。
- 4) カテーテル挿入時には、吸引をかけたまま挿入しないこと。[粘膜損傷のおそれがある。]
- 5) カテーテル挿入時に、抵抗がある場合には無理に挿入せず、原因を解消したのちに行うこと。
- 6) カテーテル挿入時には、挿入部位への挿入過多に注意すること。[カテーテルが抜去できないおそれがある。]
- 7) 低酸素状態、粘膜損傷を発生させないため、吸引時間、吸引圧及び挿入操作に十分注意すること。
- 8) 吸引時は口腔、鼻腔、咽頭、気道粘膜への損傷に注意すること。特に長期にわたり人工呼吸を行っている患者においては、定期的な気管支ファイバー等で気道粘膜の状態を観察すること。[カテーテル先端部が繰り返し気道粘膜を損傷すると、出血のおそれがある。]
- 9) 吸引調節口付タイプは飛散防止の構造になっているが、場合によっては手指を汚染するおそれがあるので注意すること。
- 10) 気管内チューブに本品を挿入する場合には、気管内チューブの内径の1/2以下のカテーテルサイズを選択すること。[末梢気道に陰圧が加わり、肺泡虚脱を引き起こすおそれがある。]

- 11) 使用前にはコネクターと吸引器がしっかり接続されていることを確認すること。また、使用中は本品の破損、接続部の緩みや漏れ及び詰まり等について注意すること。
- 12) コネクターを接続する場合には、過度な締め付けに注意すること。[接続部が破損するおそれがある。]
- 13) アルコール等の有機溶剤を含む消毒剤を使用しないこと。[コネクターにひび割れが生じるおそれがある。]
- 14) 清潔操作で気道内吸引を行うこと。口腔・鼻腔の吸引に使用したカテーテルを下部気道の吸引に使用しないこと。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

- 1) 脂溶性の薬液等ではポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)が溶出するおそれがあるので、注意すること。
- 2) カテーテルを鉗子等で挟まないこと。また、刃物等による傷は絶対に避けること。[カテーテルの切断、空気混入、液漏れ等が生じるおそれがある。]

＜不具合・有害事象＞

- 1) 不具合
 - ・ カテーテル及びコネクターの破損
 - ・ カテーテルの閉塞
 - ・ カテーテルのキンク
- 2) 有害事象
 - ・ 感染
 - ・ 無気肺、低酸素血症（吸引時の高度な陰圧）
 - ・ 気道粘膜損傷、出血

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

- ・ 水ぬれに注意して保管すること。高温又は湿度の高い場所や、直射日光の当たる場所には保管しないこと。

＜有効期間＞

- ・ 内箱の使用期限欄を参照のこと。[自己認証（自社データ）による]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者 株式会社トップ（添付文書の請求先）

TEL 03-3882-3101

